

4年次

# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

## 【Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery】

担当責任者 教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学） 鈴木 秀明

ねらい

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学に含まれる分野は広範で、耳科学(聴覚学、平衡神経学)、鼻科学、口腔咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学、顎顔面外科、再建外科を主とする形成外科学、および音声言語学に及んでいる。まず、これらの領域について系統的に行われる講義を通じて、コア・カリキュラムに示された内容を最低限の目標として、基礎的知識を習得するよう努める。続いて特に重要な症候、疾患、検査法、治療法を取り扱う臨床講義を通じて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の医学・医療に関する理解を深める。

学修目標

1. 聴覚障害、平衡障害の診断法と治療法を説明できる（Ⅱ-6）
2. 鼻・副鼻腔疾患の診断法と治療法を説明できる（Ⅱ-6）
3. 口腔・咽頭・喉頭疾患の診断法と治療法を説明できる（Ⅱ-6）
4. 甲状腺疾患を含む頸部疾患の診断法と治療法を説明できる（Ⅱ-6）
5. 唾液腺疾患と顔面神経麻痺の診断法と治療法を説明できる（Ⅱ-6）
6. 気管・食道疾患の診断法と治療法の説明をできる（Ⅱ-6）
7. 耳鼻咽喉科領域のプライマリ・ケアについて概説できる（Ⅱ-6）

事前事後学習の方法

1. シラバスに掲載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと
2. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習を行うこと

成績評価方法・基準

1. 理解度チェックのための小テスト(45%)、課題レポート(28%)、出席状況(27%)を基に総合的に評価する。
2. 100点満点換算で、60点以上を合格とする。

○ 教科書

「新耳鼻咽喉科学」(野村恭也編著、南山堂)

○ 参考書

「目でみる耳鼻咽喉科疾患」(池田勝久編著、文光堂)

## 4年次

講義:2401講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R4.4.1	金	7・8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科概論(課題レポート)	D	14	1	鈴木 秀明
4.5	火	〃	口腔・咽喉頭の構造と機能	〃	〃	〃	長谷川 翔一
4.8	金	〃	聴覚機能検査・平衡機能検査(小テスト)	〃	〃	2	古閑 友馬
4.12	火	5・6	聴覚障害を起こす疾患の診断と治療(小テスト)	〃	〃	〃	河口 倫太郎
4.14	木	7・8	顔面外傷	〃	〃	4	宇高 毅(学外)
4.21	〃	5・6	頸部、甲状腺疾患の診断と治療	〃	〃	〃	清水 隆(学外)
4.22	金	7・8	嗅覚障害、味覚障害(課題レポート)	〃	〃	3	柴田 美雅
5.10	火	〃	顔面神経麻痺の診断と治療	〃	〃	1	高橋 梓
5.17	〃	5・6	嚥下障害の診断と治療(小テスト)	〃	〃	3	竹内 頌子
5.20	金	7・8	副鼻腔炎の診断と治療	〃	〃	4	上田 成久(学外)
5.27	〃	〃	睡眠時無呼吸症候群(課題レポート)	〃	〃	〃	北村 拓朗
6.8	水	〃	めまいの診断と治療	〃	〃	3	工藤 香児(学外)
6.17	金	5・6	鼻・副鼻腔悪性腫瘍	〃	〃	4	花栗 誠(学外)
6.21	火	7・8	頸部、甲状腺、気管、食道の構造と機能(小テスト)	〃	〃	1	伊藤 有紀
6.24	金	5・6	小児耳鼻咽喉科疾患(小テスト)	〃	〃	4	北村 拓朗
6.28	火	〃	再建術(小テスト)	〃	〃	〃	大久保 淳一
6.30	木	7・8	喉頭疾患の診断と治療	〃	〃	〃	麻生 裕明(学外)
7.5	火	5・6	アレルギー性鼻炎、花粉症	〃	〃	〃	塩盛 輝夫(学外)
7.6	水	7・8	難聴、耳鳴りの治療と予防	〃	〃	〃	森 貴稔(学外)
7.8	金	5・6	耳鼻咽喉科と産業医学	〃	〃	〃	池寄 祥司(学外)
7.12	火	7・8	口腔・咽頭悪性腫瘍(小テスト)	〃	〃	4	若杉 哲郎
7.14	木	〃	聴器の構造と機能	〃	〃	1	藤村 武之(学外)
7.19	火	〃	頭頸部の発生と奇形	〃	〃	〃	田畑 貴久(学外)
7.22	金	5・6	補聴器、人工内耳、人工中耳(小テスト)	〃	〃	4	赤池 亮太
7.27	水	7・8	耳鼻咽喉科領域の救急医療	〃	〃	〃	寶地 信介(学外)
9.6	火	5・6	咽喉頭、頸部食道悪性腫瘍(小テスト)	〃	〃	〃	若杉 哲郎
9.13	〃	〃	総括(課題レポート)	〃	〃	1	鈴木 秀明